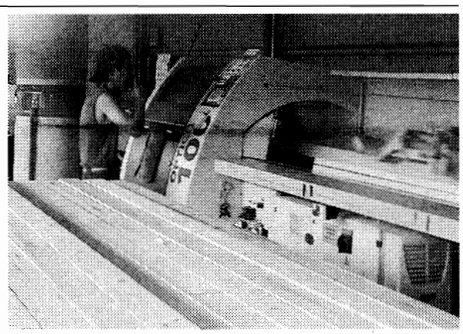
ランバーの最適カット追求が競争力強化に　ユニックス

H2とオプティカット導入で生産効率、格段に向上

2×4躯体供給のユニックス（熊本県菊池市、笠田政輝社長）は、さきごろフンデガー社の羽柄加工機H2（取扱元・沖機械）と2×4CAD（ネットイーグル）を導入。2年前から稼働しているディムター・オプティカット100（ヴァイニッヒ）と合わせて生産効率を格段に向上させている。図面、構造計算の確かさなどから改めて今後が期待される2×4だが、一方でランバーの仕入れが難しくなっている状況などから生産効率の向上は最重要課題だ。厳しい競合に勝ち抜き利益を確保するための投資の一環。

ユニックスは大東建託向けアパート物件（九州、山口）を中心に、月間45～50棟（100坪平均で4500～5000坪）をこなす。ほぼすべてがパネル供給で3ライン体制。トラスも組む。1ラインは月間1200坪が可能で、フル稼働時の2交代約7000坪が最大能力。

かつては「とにかく人手をかけてこなしていた」（笠田社長）が、同社の納入実績が認められ年々受注が増加していくなかでプレカットの機械化を模索。オプティカット導入で最も効果が出たのは「2×12、10、8の作業内容」（池上修一生産支援グループ／カット・マグサ担当）。



オプティカット（ユニックス）

同機は事前に取りたい寸法、数、等級、また原料データなどを打ち込んでおけば、コンピューターが最適で無駄のない木取りを自動選択する。「人手の時はつい面倒になると長めの材からカットしてしまうといったことがあったが、それが皆無になった」（同）。

また同社のようなパネル工場では長材を持ち運ぶ「重さ」が実はかなり効率を落とすが、同機なら1人が順番に材を投入するだけ、そしてランバー1の2枚合わせ切りができることも絶大な効果。必要な調整を済ませば「精度に寸分の狂いもなくできる」（同）。

ちなみに2×4プレカットでは木口印字が多いが、同機ではカットスピードを最優先するため側面印字を採用する。これについて「とくに利用者側から問題は出ていない」（同）とのことだ。

導入前後を比較すると、床でピーク時の1日・8人・105坪（平均）加工が、3人・170坪へ（残業時間も短縮）。また壁でもマグサ加工などを付け加えたうえで作業時間が大幅に短縮された。歩留まりは汎用カット在庫を含めて94%。

「ただ昨今は設計が複雑になり、最大能力が出しづらくなっている」（笠田社長）という状況のなか、同社では今年5月の連休を利用してH2を導入。これにより平カットをオプティカット、3次元カットをH2で分担できるようになった。連動する2×4CADも「当社のようなメーカーでは意匠などは必要なく、とにかく生産効率が上がること」（同）という観点から選んだもの。

集成材の宮盛
パワーウッド
集成管柱・梁桁
株式会社 宮盛
TEL 018(875)3742㈹　FAX 018(875)5458

ダンネージ材を認証材に切替え

キャンフォー、全てにIPPCマーク

フォー（BC州バンクーバー）は日本向け材などに用いられるダンネージを、すべM　№15に基づくIPPCの認証マークのに切り替えた。日本政府はさきごろ、輸入貨物の木製梱包材について、植物衛国際基準（ISPM　№15）に基づいた年度中に導入すると発表しており、同社みはこうした動きを先取りしたもの。

既に同社の傘下製材工場と同社を輸出窓口としている製材会社には、適正な熱処理を施したことを証明するマークのついたダンネージ材が大量に在庫されている。このほど開設された同社の日本向けコンテナ貨物輸出ヤードであるキャンフォー国際流通センター内にも同様のダンネージ材が在庫され、日本へ出荷する際、ダンネージに問題があった場合は交換できるようにしている。

日本の輸入貨物木製梱包材への規制開始はまだ、具体的な日程が決まっていないが、同社では、規制が実施されてから対応していたのでは混

新潟合板振興の「越後杉合板」

中越大震災被災住宅再建に一役

4ヵ月で約100戸分を供給

新潟合板振興（新潟市、大鹿三郎社長）が生産・販売する新潟県産杉を使用した「越後杉合板」（新潟県認定製品）が、小千谷市や長岡市、十日町市等の中越大震災被害者の住宅再建向けとして使用されている。

床下地に張られた越後杉合板

同社では、新潟県森林組合から仕入れた新潟県産杉を全層に使用した越後杉合板（12、15、24、28ミリ厚3×6判）の生産・販売を今年3月から本格的に開始、3～6月の4カ月で約200立方㍍の同合板を生産・販売した。1戸当たりの合板使用量は約2立方㍍（天井、床部分）となり、その90%以上が中越大震災被害者の住宅再建向けだった。

販売は、オーシカ新潟営業所から、新潟県林業開発（新潟市、大西東輝夫社長）を通して2次問屋、工務店という流通経路（一部一般の建販ルートもある）を主体に行われている。

越後杉合板は、新潟県から品質や性能が明確な県産材（越後杉ブランド）製品と認定されれば、中越大震災被害者の住宅再建に当たって、購入費用の2分の1が、㈶新潟県中越大震災復興基金の助成対象となる。

同社では今後は、月間100立方㍍の同合板生産を目指しており、中越大震災被害者の住宅再建向け以外の需要先にも、付加価値の高い製品としての販路拡大を目指していく方針だ。

米 欧州 アフリカ
京はどこ?
北海道、沖縄、青森。逆は福井、山梨、島根。3地図出版の帝国書院が、を対象に行なった都道府結果である（03年4月28）。都道府県境だけが描に名前を記入する方式で、は63.3%、3人に1人がであった。
コレ慌ただしい時代だけ界の白地図を拡げ、わが確かめるのも一興である。
木材企業株式会社